

総社稻荷塚大道西No.2 遺跡

携帯電話用無線基地局新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2012. 1

前 橋 市 教 育 委 員 会
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
スナガ環境測設株式会社

総社稻荷塚大道西No.2 遺跡

携帯電話用無線基地局新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2012. 1

前 橋 市 教 育 委 員 会
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
スナガ環境測設株式会社

例　　言

- 1 本報告書は、携帯電話用無線基地局新設工事に伴って実施した総社稻荷塚大道西No.2遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市総社町総社3026番地
- 3 調査は、前橋市教育委員会の指導のもとに委託者 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ（群馬支店長 西野一郎）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
調査担当者 権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成23年9月26日～10月25日
- 5 整理期間 平成23年10月26日～平成24年1月16日
- 6 調査面積 106m²
- 7 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 8 測量・調査計画…須永（眞）、調査助言…金子正人、調査担当…権田、測量調査…佐々木智恵子、安全管理…金子、重機オペレーター…金子、作業事務…須永 豊が担当した。
- 9 本書は、前橋市教育委員会の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Iについては福田貫之（前橋市教育委員会文化財保護課）、その他は権田が担当し、編集・校正…須永（眞）・金子・権田、実測図の整理ほか…権田、遺構・遺物のトレース…権田・須永薰子、遺物の整理…佐々木、遺物実測…佐々木・須永（薰）、遺物洗浄・注記・接合…須永（薰）・佐々木・品川浪江、写真整理・内業事務…須永（豊）・五位野歩美が担当した。
- 10 発掘調査に参加した方々（敬称略）
佐々木智恵子　品川浪江　中村昌博　萩原順一　橋本新一　小池岩男
吉田宣政（順不同）

凡　　例

- 1 遺跡の略称は、23A132-2である。
- 2 遺構名の略称は、次のとおりである。
奈良・平安時代住居跡……H　　竪穴状遺構……T　　溝跡……W　　土坑……D
ピット（柱穴）……P
実測図中の記号　P……土器　　S……石
- 3 実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺跡　　住居跡……1/60　竪穴状遺構……1/60　溝跡……1/60・1/80
　　土坑……1/60　ピット……1/60　全体図……1/100
遺物　　土器……1/3・1/4　瓦……1/6　石製品……1/2・1/3・1/4
- 4 本文中の（ ）は推定、〔 〕は現存値を表す。
- 5 挿図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」と20万分の1「宇都宮・長野」を使用した。
- 6 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。
- 7 土層注記中の縛まり・粘性は、強・中・弱・なしの4段階に区分した。
- 8 須恵器の断面……■、施釉部分……●、煤付着部分……□、を使用した。
- 9 各遺構の面積は、平面図をもとに座標面積計算より算出した。

目 次

例言・凡例	
目次	
挿図・表・写真図版	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針	4
2 調査経過	4
IV 層序	4
V 検出された遺構と遺物	
1 遺構と遺物	
(1) 壇穴住居跡	5
(2) 壇穴状遺構	7
(3) 溝跡	7
(4) 土坑・ピット	7
VI まとめ	9

挿 図

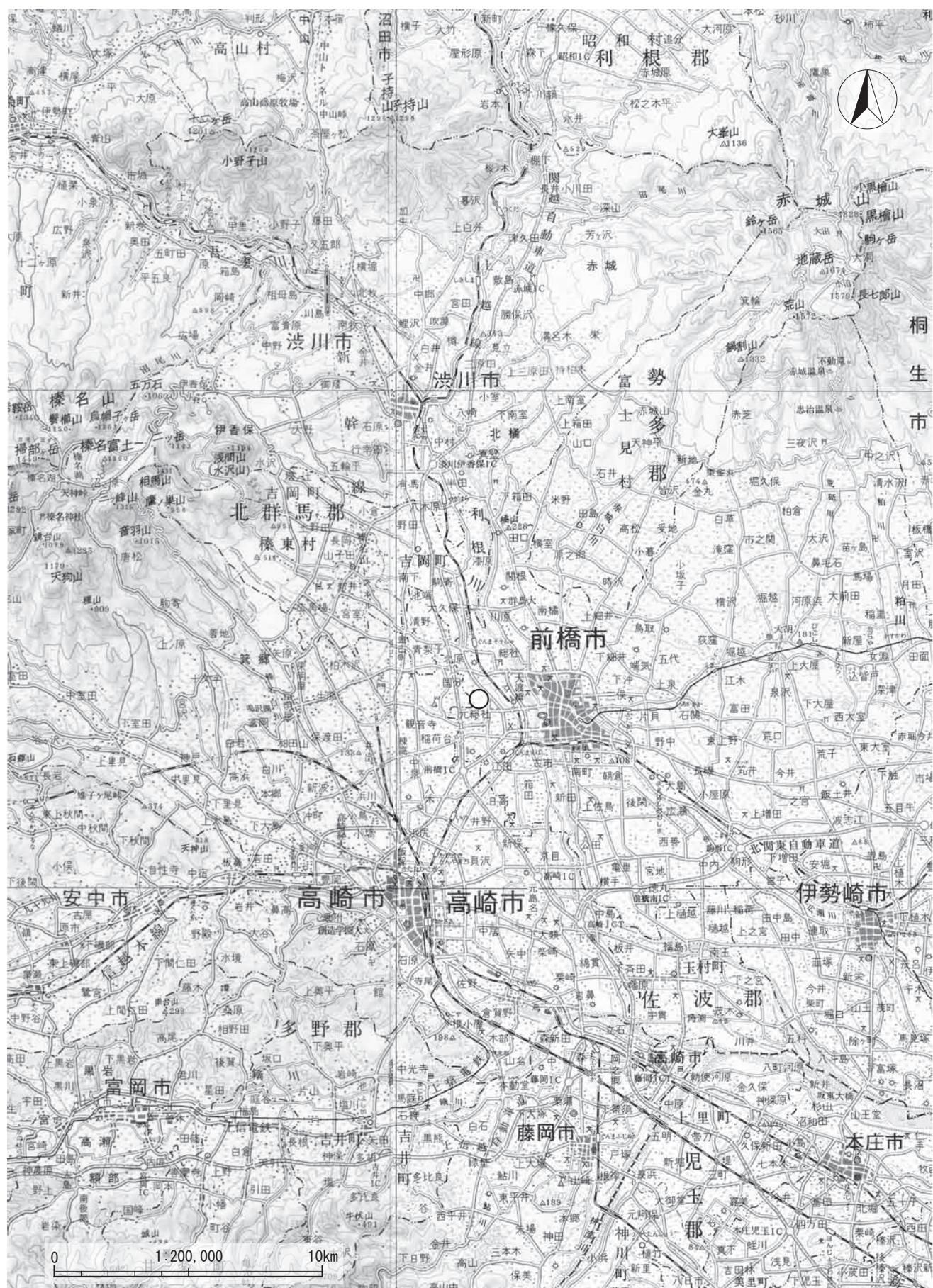
第1図 遺跡位置図	第9図 W—2号溝、東・西・南壁断面、
第2図 周辺遺跡図……………	P—1～12号ピット……………16
第3図 基本土層断面図……………	第10図 P—13～23号ピット、焼土跡、
第4図 総社稻荷塚大道西No.2遺跡 全体図……………	D—1～9号土坑……………17
第5図 H—2・3・5号住居跡……………	第11図 H—2・4・6～8号住居跡
第6図 H—4・6号住居跡……………	出土遺物実測図……………18
第7図 H—7～9号住居跡……………	第12図 H—8・9号住居跡、T—1号
第8図 T—1号竪穴状遺構、W—1号溝……………	竪穴状遺構、D—2・7号土坑、 W—2号溝出土遺物実測図……………19

表

第1表 周辺遺跡概要一覧表……………	第3表 ピット計測表……………8
第2表 土坑計測表……………	第4表 出土遺物観察表……………10

写真図版

図版1 総社稻荷塚大道西No.2遺跡全景 W—2号溝周辺全景	図版4 D—1号土坑全景 D—2・5・6号土坑全景
図版2 H—2号住居跡全景 H—2号住居跡竪全景	D—3号土坑全景 D—4号土坑全景
H—3号住居跡全景	D—7・8号土坑全景
H—3号住居跡掘り方全景	W—2号溝周辺全景
H—4号住居跡全景	調査区南西壁断面
H—4号住居跡竪全景	調査区南東壁断面
H—5号住居跡全景	図版5 H—2・4・6～8号住居跡出土遺物
H—6号住居跡全景	図版6 H—8・9号住居跡、 T—1号竪穴状遺構、 D—2・7号土坑、 W—2号溝出土遺物
図版3 H—6号住居跡竪全景 H—7号住居跡全景	
H—8号住居跡全景	
H—8号住居跡遺物出土状況	
H—9号住居跡全景	
T—1号竪穴状遺構全景	
W—1号溝跡全景	



第1図 遺跡位置図

I 調査に至る経緯

平成23年5月17日付けで株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店より携帯電話無線基地局新設工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年5月31日に試掘調査を実施し、豎穴住居址や溝を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、建設予定地の変更は不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、民間調査組織に業務を委託するよう株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店に回答をした。民間調査組織の導入等については、依頼者である株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店の合意も得られ、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成23年9月26日付けで株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店と民間調査組織であるスナガ環境測設株式会社との間で発掘調査業務契約を締結し、同年9月26日から発掘調査を開始した。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の立地

本遺跡は、総社町総社に所在し、前橋市街地の西側約3kmで、JR新前橋駅の北西約2.0kmに位置する。また、関越自動車道の前橋インターチェンジから北へ約2.5km、側道から東へ約1kmに位置し、北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山を望む田畑の広がる地域である。本遺跡の南から南西側にかけて土地区画整理事業が長年に渡り行われ、主要な幹線道路も整備されつつある。

前橋市の地形は、北東部の赤城火山斜面、東部の広瀬側低地帯、南部の現利根川氾濫源、南西部の前橋台地の4地域に大別される。当遺跡は前橋台地上に立地しており、榛名山の南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の先端部にあたる。また、東に利根川が南流し、西に榛名山を起源とする南東方向に流下する牛池川に挟まれた標高120mの平坦な土地に立地する。

2 歴史的環境

この地域では土地区画整理事業に伴い遺跡調査が行われ多くの遺構、遺物が検出されている。また、近隣には多くの遺跡があり、中でも本調査区域に近接する関越自動車道建設工事に伴う『上野国分僧寺・尼寺中間地域』は上野国分寺の僧寺・尼寺跡、上野国府跡、山王廐寺跡に近接する遺跡として早くから注目を浴び、昭和55年から昭和59年にかけて大規模な発掘調査が行われ、縄文時代を始めとし近世までの遺構が数多く検出されている。

縄文時代前期の住居跡は、清里・長久保遺跡、熊野谷遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、元総社小見Ⅶ遺跡、中期後半の住居跡は上野国分僧寺・尼寺中間地域、下東西遺跡、熊野谷遺跡、元総社小見Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ遺跡等で確認されている。

弥生時代では中期の環壕集落跡が発見された清里・庚申塚遺跡、後期集落跡では上野国分僧寺・尼寺中間地域の他、日高遺跡、下東西遺跡、元総社小見内Ⅲ遺跡等で報告されているが、調査例は少ない。

古墳時代では本遺跡周辺は県内有数の古墳密集地域で、5世紀末頃の遠見山古墳、6世紀代には王山古墳、総社二子山古墳、終末期には愛宕山古墳、宝塔山古墳、最終に蛇穴山古墳などの総社古墳群がある。その近

くには白鳳期の建築物と考えられる山王廃寺遺跡があり仏教文化と古墳文化の併存がうかがえる。集落跡は4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺構を多数検出しており、下東西遺跡、元総社明神遺跡I～XIII、鳥羽遺跡、草作遺跡、弥勒遺跡・II遺跡、大友屋敷II・III遺跡、屋敷遺跡・II遺跡、閑泉樋南遺跡、上野国分寺参道遺跡、元総社宅地遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域等がある。この時期の生産址としては、3世紀後半に降下した浅間山起因の軽石(As-C)により埋没した水田跡や畠跡、6世紀代に降下した榛名山起因の軽石(Hr-FA・FP)により埋没した水田跡や畠跡を検出した元総社神明VII遺跡、元総社植野北開土遺跡、北原遺跡、総社閑泉明神北遺跡、元総社牛池川遺跡、元総社北川遺跡等がある。

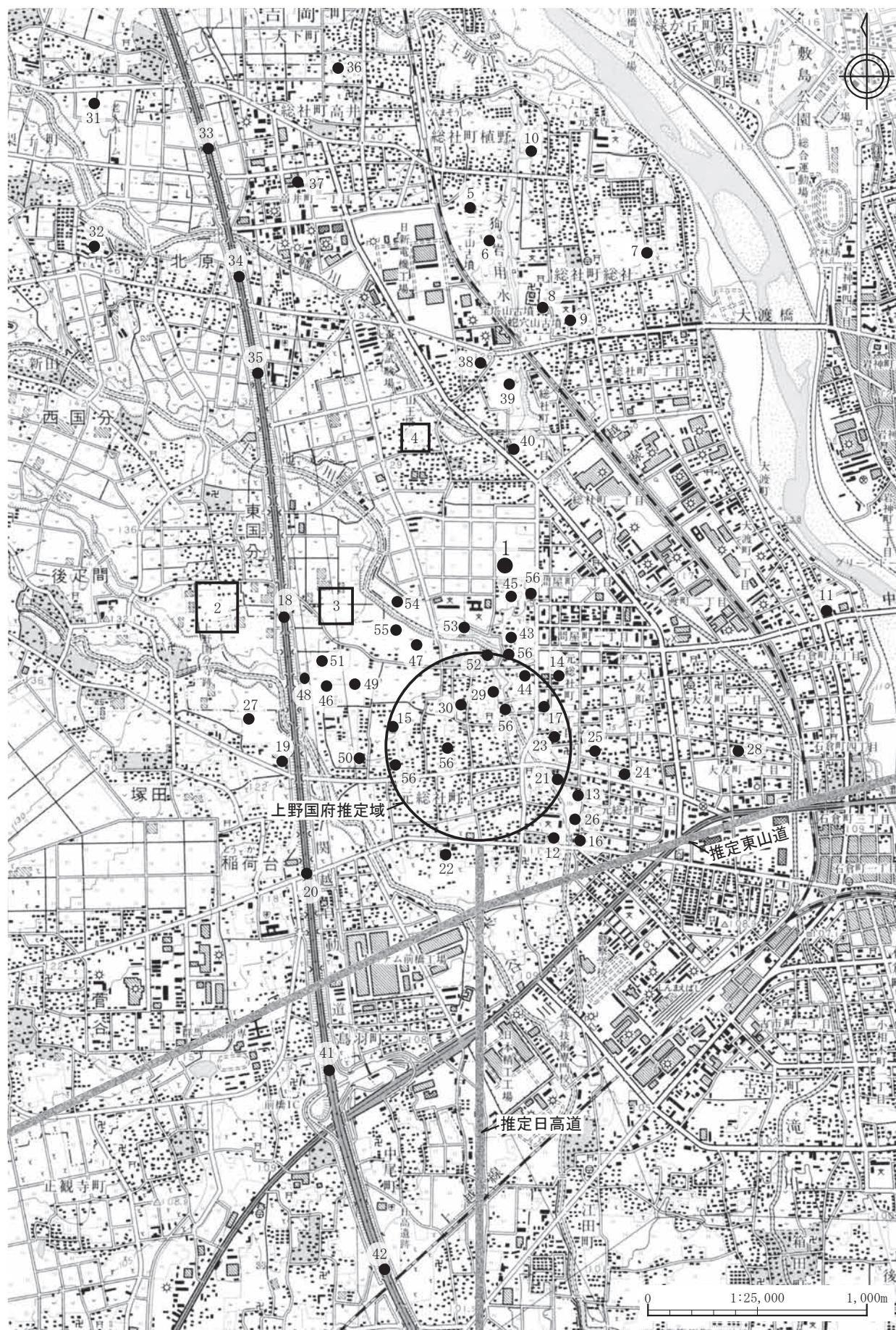
奈良・平安時代の本遺跡地域は、いよいよ古代上野の政治的・文化的中心地となり、上毛野国から上野国に移行した時期であり国府が造営された時期でもある。また、天平13年(741年)に、聖武天皇により国分寺建立の詔が発せられ国分僧寺、国分尼寺が建立された。国府を中心とした周辺の遺跡は元総社明神遺跡I～XIII、元総社小学校校庭遺跡、閑泉樋遺跡、鳥羽遺跡、草作遺跡、元総社寺田遺跡、寺田遺跡、大友屋敷II・III遺跡、天神遺跡・II遺跡、屋敷遺跡・II遺跡、堰越遺跡、堰越II遺跡、閑泉樋南遺跡、総社閑泉明神北遺跡、弥勒遺跡・II遺跡、元総社宅地遺跡、大友宅地添遺跡、上野国分寺参道遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡等がある。また、本遺跡から南約3.2kmには条里水田研究の発端となった日高遺跡がある。この遺跡で報告されている約4.5m幅の道路状遺構は、国府正面へ続く日高道と考えられている。

中世では国府跡を利用し蒼海城が築かれ(1429年)、近世には秋元氏による総社城築城や天狗岩用水、五千石堰など貴重な遺跡や旧跡が集中する地域である。

前橋市総社町の町名は、平安時代に上野国総社神社が現在の元総社町に祀られ、総社と呼ばれていたが、江戸時代の初め秋元氏が新たに領内の植野の地に城を築き、元総社の人々を一部移住させた。その城下町を佐渡奉行街道の総社宿として整備したため、総社神社のある地は総社町の元地であることから元総社と呼ばれ、総社宿のある地が総社と呼ばれるようになった。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	総社稻荷塚大道西No.2遺跡	本遺跡 奈良・平安住居他	29	総社閑泉明神北遺跡	古墳水田・畠・溝跡、中世溝跡
2	上野国分僧寺跡	奈良	30	元総社宅地遺跡1～23トレ	古墳・平安・近世住居跡、溝跡、他
3	上野国分尼寺跡	奈良	31	薬師前遺跡	繩文ピット、奈良・平安住居・溝跡
4	山王廃寺跡	白鳳期	32	熊野谷遺跡・II・III遺跡	繩文・平安住居跡、平安溝跡
5	総社二子山古墳	前方後円墳(6世紀後半)	33	下東西遺跡	繩文埋甕、弥生～平安住居跡、他
6	愛宕山古墳	円墳(7世紀前半)	34	北原遺跡	繩文土坑、古墳水田、奈良・平安住居
7	遠見山古墳	前方後円墳	35	国分境遺跡・II・III遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他
8	宝塔山古墳	方墳(7世紀後半)	36	総社植野北開土遺跡	古墳水田跡、他
9	蛇穴山古墳	方墳(7世紀末)	37	柿木遺跡・II遺跡	奈良・平安住居・溝跡
10	稻荷山古墳	円墳か	38	村東遺跡	古墳・奈良・平安住居・溝跡、中世堀跡
11	王山古墳	前方後円墳(6世紀中)	39	大屋敷遺跡I～V	繩文～奈良・平安住居跡、中世溝跡他
12	元総社小学校校庭遺跡	平安掘立柱建物跡、他	40	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡	奈良・平安住居跡
13	元総社明神遺跡I～XIII	古墳水田跡、古墳～中世住居跡、他	41	中尾遺跡	奈良・平安住居跡
14	閑泉樋遺跡	奈良・平安溝跡	42	日高遺跡	弥生住居・水田跡、平安水田跡、他
15	草作遺跡	古墳～平安住居跡、中世井戸跡	43	総社甲稻荷塚大道西遺跡	平安住居・溝跡、他
16	寺田遺跡	平安溝跡	44	総社閑泉明神北II遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
17	閑泉樋南遺跡	古墳住居跡、奈良・平安溝跡	45	総社甲稻荷塚大道西II遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
18	上野国分僧寺・尼寺中間地域	繩文～平安住居跡、中世溝・道路	46	元総社小見遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
19	塚田村東遺跡	平安住居跡	47	元総社小見内III遺跡	弥生住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
20	鳥羽遺跡	古墳～平安住居跡、鍛冶、掘立柱跡	48	元総社小見II遺跡	繩文住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
21	大友屋敷II・III遺跡	古墳～平安住居跡、平安溝跡、他	49	元総社小見III遺跡	繩文住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
22	天神遺跡・II遺跡	奈良・平安住居跡	50	元総社草作V遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
23	屋敷遺跡・II遺跡	古墳～平安住居跡、中世堀跡、他	51	元総社小見VII遺跡	繩文住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
24	堰越遺跡	奈良・平安住居跡、溝跡	52	総社閑泉明神北遺跡	古墳水田・畠跡
25	堰越II遺跡	平安住居跡	53	元総社牛池川遺跡	古墳水田跡
26	元総社寺田遺跡	古墳水田跡、奈良・平安住居・溝跡	54	元総社北川遺跡	古墳水田跡、平安水田跡
27	上野国分寺参道遺跡	古墳、平安住居跡	55	元総社蒼海遺跡群(17)	古墳・奈良・平安住居跡、他
28	大友宅地添遺跡	平安水田跡	56	元総社蒼海遺跡群(36)	古墳溝・畠、平安住居他



第2図 周辺遺跡図

III 調査の方針と経過

1 調査方針

調査委託箇所は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの携帯電話用無線基地局建設予定地で、調査面積が106m²である。

グリッドは公共座標に基づいて4mピッチで設定し、西から東へX0、X1、X2、……、北から南へY0、Y1、Y2、……と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。調査区の公共座標（日本測地系 第IX系）は、隣接する区画整理事業における遺跡発掘調査で使用するX0・Y0をX=41,384m Y=-67,880mとした。水準は公共水準点に基づき調査区内に1ヶ所 (BM.1 H=120.40m) 設置した。

調査方法は、試掘による成果及び前橋市教育委員会文化財保護課の業務監督員の指導による土層確認を行い表土掘削を開始し、遺構確認、杭打ち、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

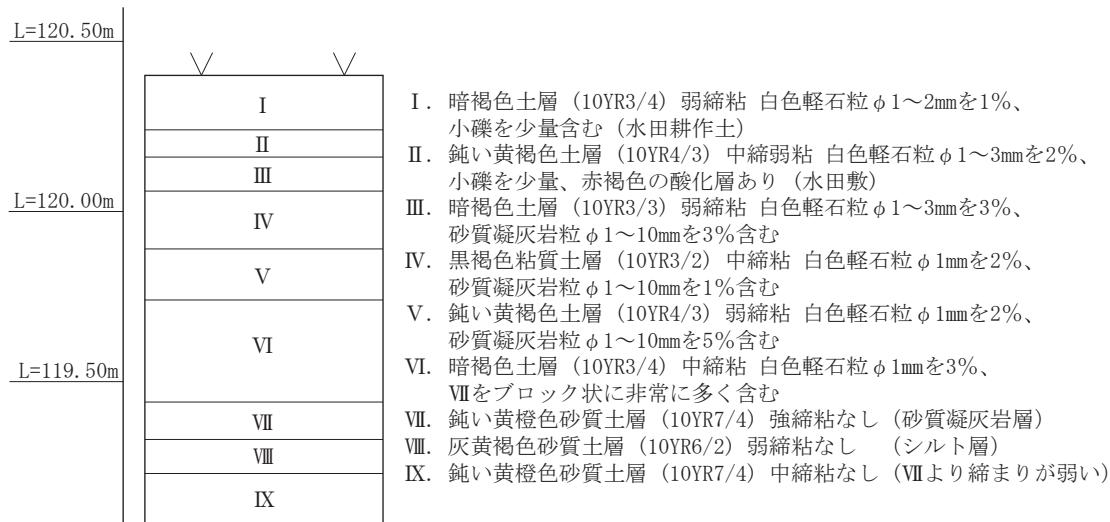
図面作成は、平板・造り方測量を用い、原則として住居跡は1/20、竈は1/10、土坑・溝跡等1/20、全体を1/100の縮尺で作図し、遺物については遺物分布平面図を作成、遺物台帳に記載し、付番処理して取り上げた。また、遺構・遺物等の写真撮影を白黒(35mm)、リバーサルフィルム(35mm)、デジタルカメラで行った。

2 調査経過

本遺跡調査は、平成23年9月26日草刈りから開始した。28日資材搬入し、29日単管・トラロープなどによる安全対策をおこなった。29日午後から重機(0.45バックホウ)により北西隅から表土掘削を開始した。遺構確認面は、業務監督員の指導を得て行うとともにジョレン掛精査により遺構確認を行った。10月3日から移植ゴテ等による住居跡、溝、ピット・土坑の掘り下げ、遺構精査作業を開始した。また、グリッド杭・水準点測設を行い、6日から遺構図面作製作業を進めた。31日に業務監督員の検査を受け、指導個所を精査し11月1日に図面、写真など記録保存が終了した。3日に埋め戻しが終了し、資材及び機材の片付け作業は、4日に完了した。

IV 層序

層序は、調査区内の東壁際に入れた深掘り土層断面をもとに、模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。



第3図 基本土層断面図

V 検出された遺構と遺物

1 調査区の遺構と遺物

調査地は、土地改良事業により上層を削平され、特に住居跡など壁高があまりなく遺存状況の悪いものも検出した。また、隣接する区画整理事業の区域の中では多くの遺構や遺物が報告され、周囲の水田の下にも遺構があると思われる。本遺跡から検出された遺構は、竪穴住居跡8軒、竪穴状遺構1軒、溝跡2条、土坑9基、ピット23基を検出した。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡

当初、住居として付番した遺構に竈がないことが確認され、竪穴状遺構（T-1）としたことでH-1号住居跡は欠番とした。

H-2号住居跡〔第5図、図版2〕

位置 X245・246、Y14グリッド 重複 **D-8号土坑**を西側で切っている。**形状** 隅丸長方形。**規模** 東西3.55m、南北2.83m、壁高8~11cm。**面積** 9.63m² **主軸方向** N-91°-E **床面** 平坦で床面標高は120.04mを測る。壁周溝は検出しなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出しなかった。**竈** 北壁のやや東寄りに位置する。主軸方向N-0°-E、全長71cm、最大幅75cm、焚口部幅45cm。上部を削られ検出状況は悪い。両袖と燃焼部奥の突き当たりに、凝灰岩を加工し配置している。**時期** 出土遺物から、10世紀中頃と考えられる。**遺物** 須恵器の塊、壺、羽釜などを出土した。掲載した遺物は、須恵器の塊3点、壺1点、羽釜1点、の合計5点。

H-3号住居跡〔第5図、図版2〕

位置 X244、Y14グリッド 重複 **H-5・9**を切っている。**形状** 隅丸長方形。**規模** 東西(2.35)m、南北(2.94)m、壁高8~10cm。**面積** (7.03)m² **主軸方向** N-94°-E **床面** 平坦で床面標高は120.10mを測る。壁周溝は検出されなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**竈** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N-94°-E、全長61cm、最大幅65cm、焚口部幅36cm。上部を削られ検出状況は悪い。両袖に凝灰岩を加工し配置している。また、燃焼部中央に支脚石を配置したと思われる穴を検出した。**時期** 出土遺物や重複住居の切り合い関係から10世紀代と考えられる。**遺物** 土師器の甕の破片を出土した。資料として掲載し得る個体はなかった。

H-4号住居跡〔第6図、図版2〕

位置 X245、Y14・15グリッド 重複 **H-8・9**を切っている。**形状** 隅丸長方形。**規模** 東西2.43m、南北3.00m、壁高6~10cm。**面積** 7.08m² **主軸方向** N-94°-E **床面** 平坦で床面標高は120.05mを測る。壁周溝は検出しなかった。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** 竈の南側に検出。規模は長径60cm、短径50cm、深さ14cmの橢円形。**竈** 南壁のほぼ中央に位置する。主軸方向N-95°-E、全長[50]cm、最大幅75cm、焚口部幅32cm。上部を削られ検出状況は悪い。燃焼部中央に凝灰岩を加工した支脚石を配置している。**時期** 出土遺物や重複住居の切り合い関係から10世紀中頃から後半と考えられる。**遺物** 須恵器の塊、壺、甕、瓦、土師器の甕の破片などを出土した。掲載した遺物は、須恵器の塊1点と瓦1点の合計2点。

H-5号住居跡〔第5図、図版2〕

位置 X244・245、Y14・15グリッド **重複** H-9を切り、H-3に切られている。 **形状** 不明。硬化面の一部分を検出した。 **規模** 東西[2.38]m、南北[1.95]m。 **面積** [2.96]m² **主軸方向** 不明。

床面 平坦と思われる。床面標高は[120.14]mを測る。 **柱穴・貯蔵穴・竈** 不明。 **時期** 時期を決定づけられるものがいため不明であるが、H-3・9住居跡の切り合い関係から9世紀代と考えられる。 **遺物** 出土しなかった。

H-6号住居跡〔第6図、図版2・3〕

位置 X245、Y15・16グリッド **重複** H-8号住居跡とD-5・6号土坑を切っている。 **形状** 隅丸長方形を呈する。 **規模** 東西2.23m、南北2.02m、壁高7~12cm。 **面積** 4.44m² **主軸方向** N-93°-E

床面 平坦で堅緻。床面標高は119.82mを測る。壁周溝は検出しなかった。 **ピット** 1基検出した。P1は長径26cm、短径25cm、深さ30cmの円形。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 東壁の北寄りに位置する。主軸方向N-92°-E、全長55cm、最大幅30cm、焚口部幅25cm。上部を削られ検出状況は悪い。 **時期** 出土遺物や重複遺構の切り合い関係から、10世紀中頃と考えられる。 **遺物** 須恵器の塊、壺、甕、羽釜などの破片を出土している。掲載した遺物は、須恵器の塊3点、壺1点の合計4点。

H-7号住居跡〔第7図、図版3〕

位置 X246、Y15・16グリッド **重複** 東側をH-8号住居に切られ、中央付近でP-23号ピットに切られている。 **形状** (隅丸長方形)。 **規模** 東西[1.74]m、南北(2.75)m、壁高0~20cm。 **面積** [4.76]m² **主軸方向** N-(98)°-W **床面** 平坦で堅緻。床面標高は119.89mを測る。壁周溝は現存部分で全周する。 **柱穴・貯蔵穴・竈** 検出されなかった。 **時期** 重複住居の切り合い関係と遺物から、9世紀代と考えられる。 **遺物** 土師器の台付き甕の破片が出土している。掲載した遺物は、土師器の台付き甕1点。

H-8号住居跡〔第7図、図版3〕

位置 X245・246、Y15グリッド **重複** 北側でH-4号住居に切られ、南側でH-6号住居に切られ、東側でH-7号住居を切り、西側でH-9号住居を切っている。 **形状** 隅丸長方形。 **規模** 東西3.36m、南北2.60m、壁高4~31cm。 **面積** (8.42)m² **主軸方向** N-91°-E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は119.83mを測る。壁周溝は西・北・東壁部分で確認したが南壁には確認できなかった。 **柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 南側中央付近の床面に焼土があり、H-6号住居を建築する際に壊されたと思われる。 **時期** 重複住居の切り合い関係や出土遺物から、9世紀後半~10世紀前半と考えられる。 **遺物** 須恵器の塊、壺など完形のものが多く出土している。掲載した遺物は、須恵器の塊6点、壺10点、砥石1点、錘石1点の合計18点。

H-9号住居跡〔第7図、図版3〕

位置 X244・245、Y14・15グリッド **重複** 北側でH-3・5号住居に切られ、東側でH-4・8号住居に切られ、南側でP-21に切られている。 **形状** 隅丸長方形。 **規模** 東西3.15m、南北4.10m、壁高18~27cm。 **面積** [14.77]m² **主軸方向** N-94°-E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は119.88mを測る。壁周溝は竈周辺以外で検出した。 **柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N-94°-E、全長[47]cm、最大幅62cm、焚口部幅25cm。上部を削られ検出状況は悪い。 **時期** 重複住居の切り合い関係や出土遺物から、8世紀後半~9世紀前半と考えられる。 **遺物** 土師器の甕、須恵器の塊・壺・蓋など出土した。掲載した遺物は、須恵器の壺1点、蓋2点の合計3点。

(2) 壇穴状遺構

T—1号壇穴状遺構〔第8図、図版3〕

位置 X245、Y13・14グリッド 重複 南側でD—7を切り、D—8に切られている。 **形状** 隅丸長方形。 **規模** 東西2.64m、南北3.06m、壁高は10~12cm。 **面積** 7.84m² **主軸方向** N—84°—E **床面** 平坦で床面標高は119.98mを測る。 **柱穴・貯蔵穴・竈** 検出されなかった。 **時期** 重複遺構の切り合い関係や出土遺物から、9世紀末~10世紀前半と考えられる。 **遺物** 須恵器の壺、坏、甕などが出土している。掲載した遺物は、須恵器の坏1点。

(3) 溝跡

W—1号溝〔第8図、図版3〕

X244~247、Y13グリッド内に位置する。調査区の東から西へ走行し、重複するものはない。溝の全長は11.30m、上幅126~163cm、下幅49~78cm、東壁と西壁の断面から深さ37cmを測る。断面形状は椀状である。東側底面の標高は119.999m、西側は119.830mで東から西へ1.5%の勾配で流れる。遺物は、陶器茶碗、すり鉢、土師器の坏などの破片が多量に出土し、時期は土地改良事業前まで使用していた溝と思われる。

W—2号溝〔第9図、図版1・4〕

X244~246、Y16グリッドに位置する。東から西へ走行する。重複は、D—2・9号土坑、P—8・10・11・22号ピットに切られている。確認された溝の全長は5.60m、上幅50~98cm、下幅25~53cm。確認面からの深さは3~10cmを測る。断面形状は皿状である。東側底面の標高は119.82m、西側は119.72mで、東から西へ1.8%の勾配で流れる。東側壁際に窪地があり、そこからオーバーフローした水がW—2号溝を通り、西側の窪地へ流れ込んだと思われる。遺物は、土師・須恵器、陶器の茶碗・皿、すり鉢、などの破片が多く出土し、時期は中世以降と思われる。

(4) 土坑・ピット〔第9・10図、図版1・4〕

調査区内の土坑は9基検出した。そのうち遺物を出土したものはD—1・2・4・5・6・7・8・9号土坑の8基であった。いずれも破片を少量出土しているものばかりであった。D—2・3・9号土坑は覆土や壁断面から中世以降の土坑と思われる。D—2号土坑では、用途は不明だがきれいに磨かれた石製品（長さ5.8cm、幅4.5cm、厚さ0.8cm）が出土した。D—4号土坑は、西壁断面からH—9号住居跡と時期差はあまりないと考えられる。D—5・6号土坑は、H—6・8号住居跡との切り合い関係から住居跡より前に掘られたと考えられる。D—7号土坑は、T—1号壇穴状遺構との切り合い関係や遺物から9世紀後半と考えられる。D—8号土坑は、T—1号とH—2号との切り合い関係や遺物から10世紀前半と考えられる。D—1号土坑は時期不明である。なお、各土坑の計測値は第2表土坑計測表にまとめた。

ピットは調査区内の南側で23基検出した。平面形状は四角形や円形で、上端が不整形や円形であっても底部は四角形なものが多く、これらのものを含めると角柱穴は19基となる。規模は上端14×16cm~44×55cm、深さ10~55cmを測り、砂質凝灰岩を掘り込んでいる。遺物はP—1・11・14・21号ピットから土師・須恵器の小片を少量出土した。時期は中世のものと思われる。また、建物の柱穴跡として組めるものはなかった。なお、各柱穴の計測値は第3表ピット計測表にまとめて報告する。

第2表 土坑計測表

〔 〕は現存値、()は推定値を表わす。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
D-1	X246, Y15	130	85	29	楕円形	
D-2	X245, Y16	81	69	19	楕円形	W-2 内
D-3	X244, Y16	207	[125]	26	[隅丸長方形]	
D-4	X244, Y15	[150]	[80]	26	(隅丸長方形)	
D-5	X245, Y15・16	127	98	[14]	楕円形	H-6・8に切られる
D-6	X245, Y15・16	94	74	34	隅丸長方形	H-6 に切られる
D-7	X245, Y14	68	53	47	隅丸長方形	T-1 を切る
D-8	X245, Y14	[168]	(110)	14	楕円形	T-1 を切る
D-9	X246, Y16	80	79	51	円形	W-2 内、P-20を切る

第3表 ピット計測表

〔 〕は現存値、()は推定値を表わす。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
P-1	X244, Y16	25	22	24	長方形	角柱穴
P-2	X244, Y16・17	42	35	55	長方形	角柱穴
P-3	X244, Y17	[21]	[5]	24	[長方形]	角柱穴
P-4	X245, Y17	17	14	13	長方形	角柱穴
P-5	X245, Y16	16	14	11	長方形	角柱穴
P-6	X245, Y17	29	[16]	25	[長方形]	角柱穴
P-7	X245, Y17	28	[16]	10	[長方形]	角柱穴
P-8	X246, Y16	42	42	13	円形	W-2 内
P-9	X246, Y16	30	23	19	楕円形	底部長方形、角柱穴
P-10	X246, Y16	20	19	29	正方形	角柱穴、W-2 内
P-11	X246, Y16	53	47	27	楕円形	W-2 内
P-12	X246, Y16	23	18	23	長方形	角柱穴
P-13	X246, Y16	29	20	8	長方形	
P-14	X246, Y16	30	26	24	不整形	底部長方形、角柱穴
P-15	X246, Y15	45	[21]	18	(円形)	
P-16	X246, Y16	20	17	19	不整形	底部長方形、角柱穴
P-17	X246, Y16	38	37	43	円形	底部正方形、角柱穴
P-18	X246, Y16	20	20	21	菱形	底部台形、角柱穴
P-19	X246, Y16	20	[13]	27	[長方形]	(角柱穴)
P-20	X246, Y16	43	[25]	28	(円形)	底部長方形、角柱穴、W-2 内
P-21	X244・245, Y15	55	44	42	楕円形	H-9 を切る
P-22	X246, Y16	29	25	30	不整形	底部長方形、角柱穴、W-2 内
P-23	X246, Y15	36	34	20	不整形	底部長方形、角柱穴、H-7 を切る

VI まとめ

本遺跡の調査により、堅穴住居跡8軒、堅穴状遺構1軒、溝跡2条、土坑9基、ピット23基が検出された。当地は土地改良事業により上層が削平されたり、水田耕作による影響で遺構の残りが悪いものが多かった。

住居跡については、9世紀初頭から10世紀後半のものを検出した。重複が著しく、律令制により居住地域が定められ、同じ場所に立て替えが繰り返された結果と思われる。住居跡の特徴として一辺が4mを超える住居は1軒(H-9号住居跡)のみで、他の住居跡は最小2.02×2.33m(H-6号住居跡)～最大2.83×3.55m(H-2号住居跡)であった。主軸方向は、N-91°-E～N-(98°)-Eの範囲で画一化されている。形状は隅丸長方形をしているが、H-9号住居跡の形状は北西側を拡張しており、長方形に一部屋付け足した様相を呈している。規模として主たる部分は3.15×4.10m、面積12.77m²、拡張部分は調査区外まで延びているため現存部分の計測であるが1.4×1.4m、拡張面積はおよそ2m²ほどであった。周辺の遺跡からの検出例も数少ない。竈については、5軒の住居跡(H-2・3・4・6・9)で検出し、東側の壁に構築されていたが、H-2号住居跡は北側の壁に構築されていた。構築材として本遺跡の竈では、砂質凝灰岩を適当な大きさに加工し、竈の袖や支脚石として使用する住居(H-2・3・4)が見られた。近隣の元総社蒼海遺跡群では石切場が数ヵ所報告され、近年では元総社蒼海遺跡群(36)の4区で竈構築材採掘坑跡が報告されている。

本遺跡は、14世紀以後上野国を治めた長尾氏の居城である蒼海城の北側に位置する。長尾氏は、牛池川と染谷川を外堀とし、その内側に縦横の溝を掘り、本丸の周囲に有力な一族郎党の館を造らせ居住させた。居宅を意味する「○○屋敷」と言った郭名が使われ、「曲輪」の名を用いていない城郭発達史上初期の平城である。この城は、15世紀前半に最も繁栄したと伝われ掘り割りや館を建設するにあたり、おそらく大規模な土木工事が行われていると考えられる。本遺跡の西壁土層断面と東壁土層断面を見ると、Y15とY16グリッドの中間付近から北側では古代の土層が残っているが、南側においては緩やかに傾斜を付け砂質凝灰岩層まで削り取られた落ち込みが見られる。(したがって中世以前の遺構は検出できなくなっている。) この部分では溝1条(W-2)、土坑3基(D-2・3・9)、ピット23基(P-1～23)が検出された。ピットはここに集中し検出され殆どが角柱穴であった。掘るために鑿のような工具を使用したため、狭い穴の場合丸く掘るより四角の方が掘り易かったと考えられる。また、建物の柱穴として組めるものはなかった。W-2号溝については、勾配から推測すると東側壁際に窪地があり、そこからオーバーフローした水が溝を通り、西側の窪地へ流れ込んだのか。また、P-6・7号ピットを含むX246、Y17グリッド付近は、標高119.9mで周囲に比べ高く平坦になっており、境界溝としての役割があったのか。城の外堀とする牛池川を超えた東側には村山館や大友館があるのと同じように、北側に館があるいは物見やぐらの様なものがあったのか不明である。このような砂質凝灰岩層まで削り取った土木工事が見られる遺構が、元総社蒼海遺跡群(17)の西通線調査区に見ることが出来る。確認された遺構は、角柱穴が231基、溝はもっと広く深い掘割りと思われる。今回の調査で、平安時代の住居跡や中世の溝やピットを検出したことは、貴重な資料が得られたと思われる。

参考文献

前橋市 前橋市史編さん委員会	1971	『前橋市史 第1巻』
群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1986～1991	『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)～(5)』
群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1990	『鳥羽遺跡－L・M・N・O区－』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	1982～1997	『元総社明神遺跡 I～X III』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2001	『総社甲稻荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稻荷塚大道西II遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2005	『元総社小見VII遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2008	『元総社蒼海遺跡群(17)』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2011	『元総社蒼海遺跡群(36)』

第4表 出土遺物観察表

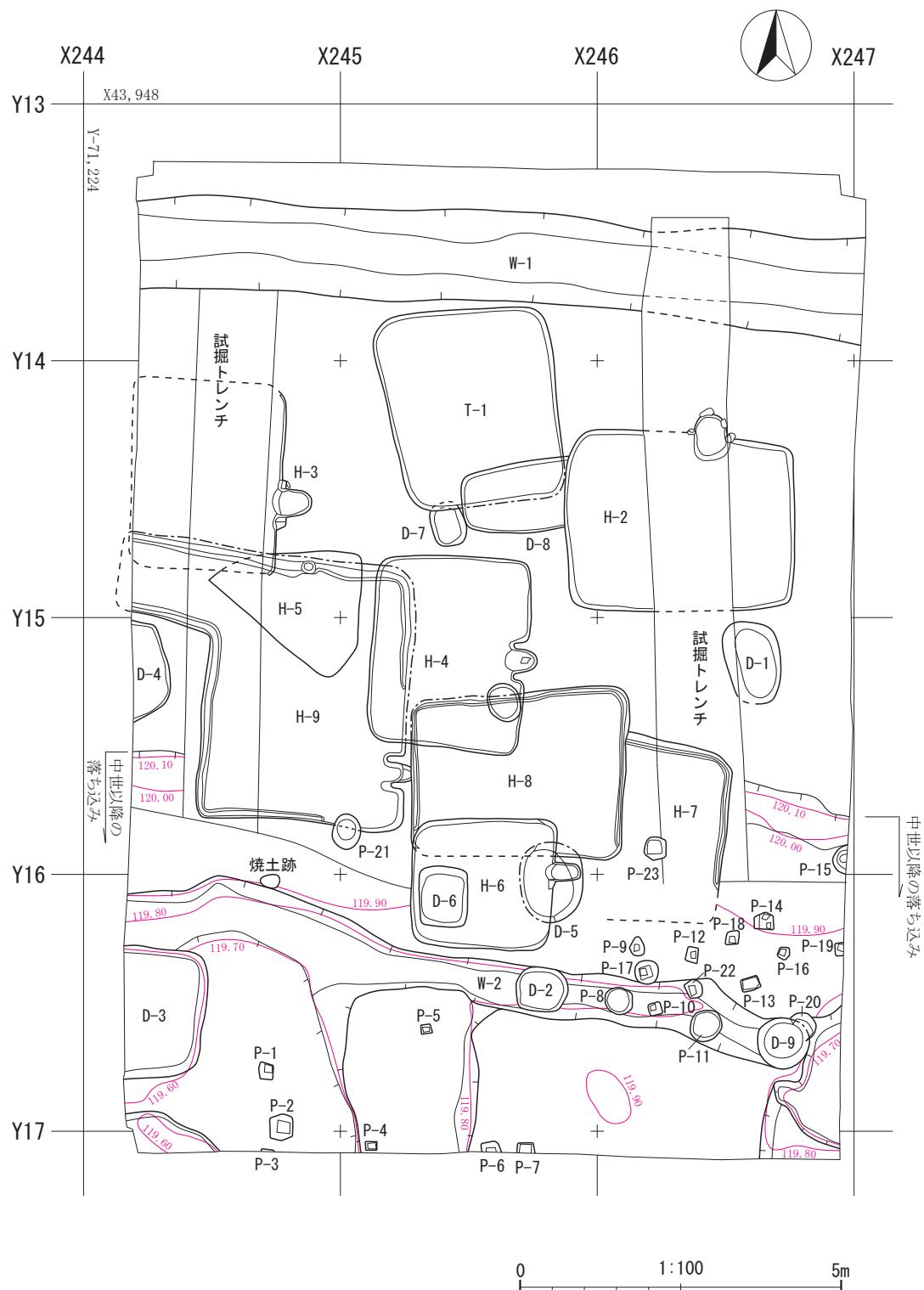
法量は①口径②底径③胸部最大④器高を表し、単位はcmである。また、() は推定値、[] は現存値を表す。

番号	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存	器形の特徴、成・整形方法	備考
1	H-2 No 2	須恵器 塊	①(12.4) ②5.8 ④4.1	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③鈍い黄橙色④2/3	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部やや内弯し外傾。口縁部外反。	
2	H-2 一括	須恵器 塊	①11.4 ②5.5 ④4.5	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③黄橙色④4/5	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部やや内弯し外傾。口縁部直線的に外傾。	
3	H-2 一括	須恵器 塊	①12.5 ②[5.8] ④4.5	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③橙色④3/4	輶轆整形。底部回転糸切り、高台部欠損。貼り付けの痕跡あり。体部やや内弯し外傾。口縁部やや外反。	
4	H-2 一括	須恵器 塊	①(11.0) ②4.6 ④4.7	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③橙色④2/3	輶轆整形。底部回転糸切り、撫で調整。体部内弯し外傾。口縁部外反。内面煤付着。	灯明皿か
5	H-2カNo1～ 4・6, No 3	須恵器 羽釜	①(18.6) ②(20.0) ④19.7	①細粒(小礫含む)②良好(酸化) ③褐色④1/2	輪積み後輶轆整形。胸部僅か丸みを持ち外傾。口縁部や内傾し角張る。外面胴部下方は箒削り、上方に箒条線あり。	
6	H-4 No 1	須恵器 塊	①12.2 ②7.6 ④5.5	①細粒(小礫含む)②良好(酸化) ③橙色④ほぼ完形	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部内弯し外傾。口縁部直線的に外傾。	
7	H-4カNo 3 ～5, 一括	瓦 平瓦	長さ[23.0] 幅[15.8] 厚さ1.6～2.1	①細・中粒(小礫含む)②良好(還元) ③灰白色④狭・側端部残	型整形。凹面は布目痕痕。凸面は箒削り。 狭・側端部箒削り。	
8	H-6 No 2	須恵器 塊	①(12.4) ②5.5 ④4.1	①細粒(小礫含む)②良好(酸化) ③鈍い橙色④2/3	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部やや内弯し外傾。口縁部やや外反。	
9	H-6 No 3	須恵器 塊	①(12.7) ②7.1 ④5.0	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③浅黄橙色④1/2	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部直線的に外傾。口縁部外反。	
10	H-6 No 5	須恵器 塊	①(12.0) ②6.4 ④4.6	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③灰白色④2/3	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部直線的に外傾。口縁部やや外反。	
11	H-6 No 6	須恵器 塊	①(11.8) ②5.8 ④4.6	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③鈍い橙色④2/3	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部やや内弯し外傾。口縁部やや外反。内面煤付着。	灯明皿か
12	H-7 No 1	須恵器 台付甕	②(7.2) ④[2.8]	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③褐灰色④台部	内外面撫で。	
13	H-8 No 1	須恵器 塊	①11.2 ②5.0 ④3.4	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③灰白色④7/8	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部やや内弯し外傾。口縁部外反。	
14	H-8 No 2	須恵器 塊	①11.6 ②6.0 ④4.5	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③鈍い橙色④ほぼ完形	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部内弯し外傾。口縁部外反。	
15	H-8 No 3	須恵器 塊	①10.2 ②5.1 ④3.2	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③鈍い橙色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部内弯し外傾。口縁部外反。口縁部タール付着。	灯明皿か
16	H-8 No 4	須恵器 塊	①11.6 ②5.0 ④3.6	①細粒(小礫含む)②良好(酸化) ③灰白色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部内弯し外傾。口縁部直線的に外傾。口縁部煤付着。	灯明皿か
17	H-8 No 5	須恵器 塊	①11.4 ②5.0 ④3.2	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③灰白色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部内弯し外傾。口縁部直線的に外傾。	
18	H-8 No 6	須恵器 塊	①12.0 ②6.6 ④3.2	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③灰色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部内弯し外傾。口縁部外反。口縁部タール付着。	灯明皿か
19	H-8 No 7	須恵器 塊	①11.4 ②6.2 ④4.6	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③灰褐色④1/2	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部から口縁部へ内弯し外傾。	
20	H-8 No 8	須恵器 塊	①11.0 ②5.0 ④3.1	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(還元) ③灰白色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部直線的に外傾。口縁部やや外反。	
21	H-8 No 9	須恵器 塊	①9.6 ②5.6 ④3.2	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(酸化) ③鈍い黄橙色④ほぼ完形	輶轆整形。底部回転糸切り無で調整。体部から口縁部内弯し外傾。全体に摩耗多い。	
22	H-8 No 10	須恵器 塊	①11.0 ②6.0 ④4.3	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(還元) ③灰白色④ほぼ完形	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部内弯し外傾。口縁部直線的に外傾。	
23	H-8 No 21	須恵器 塊	①9.9 ②5.8 ④3.1	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③灰白色④ほぼ完形	輶轆整形。底部回転糸切り後、撫で調整。体部内弯し外傾。口縁部外反。全体に摩耗・剥がれ多い。	
24	H-8 No 22	須恵器 塊	①10.8 ②5.4 ④4.3	①細粒(砂粒含む)②良好(還元) ③灰白色④9/10	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部直線的に外傾。口縁部やや外反。	
25	H-8 No 23	須恵器 塊	①12.1 ②6.8 ④5.0	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③灰白色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部やや内弯し外傾。口縁部やや外反。	
26	H-8 No 24	須恵器 塊	①12.2 ②6.4 ④5.3	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(還元) ③灰白色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部から口縁部へ直線的に外傾。	
27	H-8 No 26	須恵器 塊	①10.8 ②5.0 ④3.7	①細粒(砂粒含む)②良好(還元) ③黄灰色④4/5	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部内弯し外傾。口縁部外反。	
28	H-8 No 15・17	須恵器 塊	①12.3 ②6.3 ④5.1	①細粒(小礫含む)②良好(還元) ③褐灰色④2/3	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部内弯し外傾。口縁部外反。	
29	H-8 No 11	石製品 砥石	長さ6.2cm 幅2.5cm 厚さ2.3cm 重さ67.2g 石材: 安山岩		3面使用し、研磨痕著しく弓張り状を呈する。	
30	H-8 No 16	石製品 錐石	長さ12.2cm 幅9.2cm 厚さ2.1cm 重さ365.0g 石材: 安山岩		梢円形で平たく、小ぶりな割に重い。紐状の物が架かりやすいように両端に欠け目を付けている。	
31	H-9カ No 1	須恵器 塊	①13.3 ②6.9 ④3.9	①細粒(小礫含む)②良好(還元) ③褐灰色④ほぼ完形	輶轆整形。底部回転糸切り、未調整。体部やや内弯し外傾。口縁部直線的に外傾。	
32	H-9 No 7・8	須恵器 蓋	①14.0 摘み径3.2 ④2.9	①細粒(小礫含む)②良好(還元) ③黄灰色④完形	輶轆整形。天井部周辺回転糸切り。摘みは環状で貼り付け。口縁端部は折り曲げ。	
33	H-9 No 13・14	須恵器 蓋	①10.5 ④1.9	①細粒(小礫含む)②良好(還元) ③黄灰色④3/4	輶轆整形。天井部周辺回転糸切り。口縁端部は折り曲げ。摘みを貼り付けた痕跡あり。	
34	T-1 No 5	須恵器 塊	①10.4 ②5.0 ④3.4	①細粒(砂粒・小礫含む)②良好(還元) ③灰白色④完形	輶轆整形。底部回転糸切り、撫で調整。体部やや内弯し外傾。口縁部外反。	
35	D-2 No 1	石製品 磨製石器	長さ5.8cm 幅4.5cm 厚さ0.8cm 重さ50.5g 石材: 蛇紋岩か		全面きれいに研磨され、光沢がある。先端に少し割れあり。	
36	D-7 No 2	須恵器 塊	②6.6 ④[1.9]	①細粒(砂粒含む)②良好(酸化) ③橙色④1/5	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。	内面黒色
37	W-2 一括	灰釉陶器 塊	①(12.4) ②7.8 ④3.9	①水簸②良好(還元) ③鈍い黄褐色④3/5	輶轆整形。底部回転糸切り、付け高台撫で調整。体部から口縁部へ内弯し外傾。内面に重ね焼きした跡あり。	

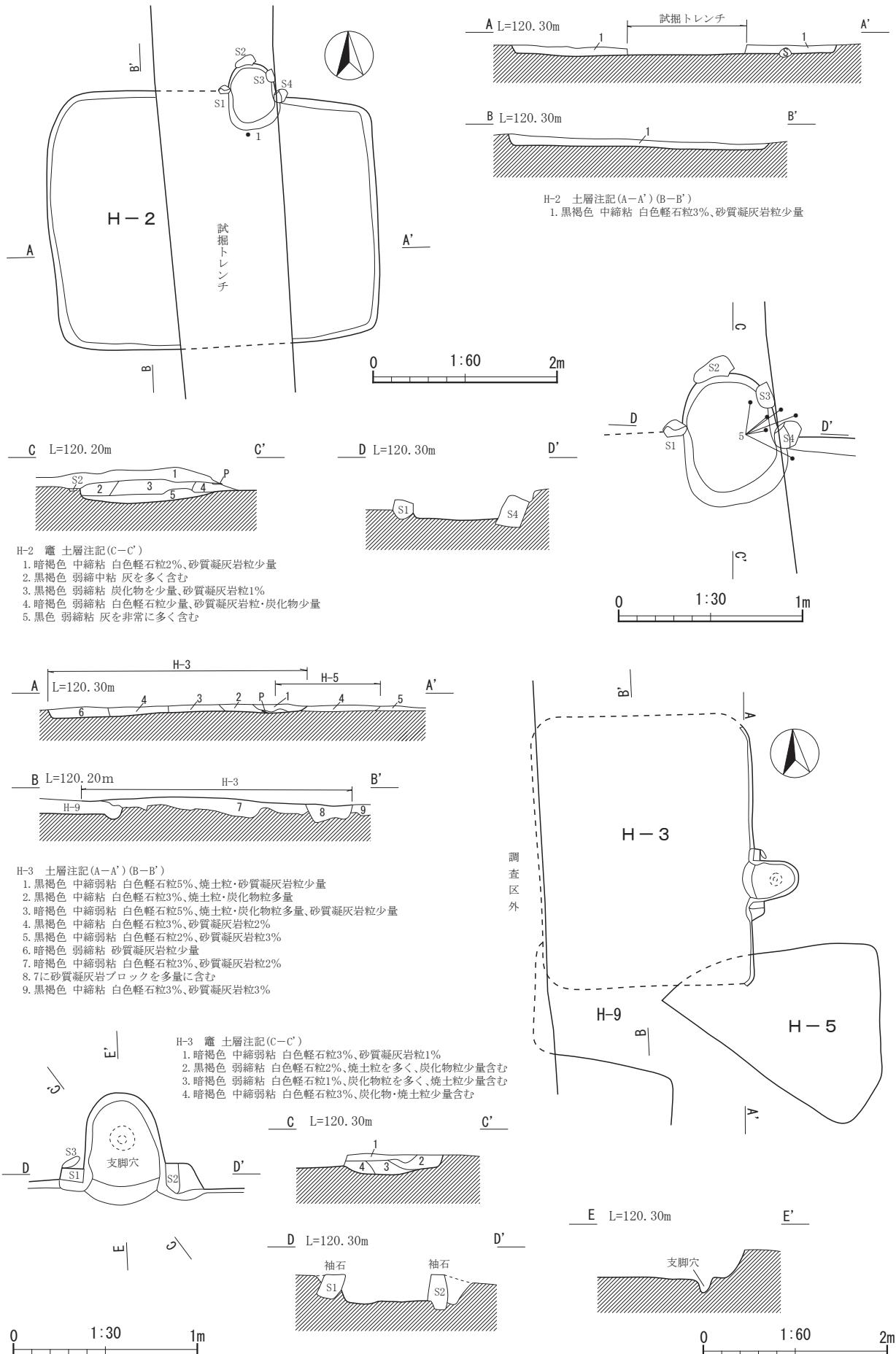
胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0～1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とした。

色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票 監修 2000)によった。

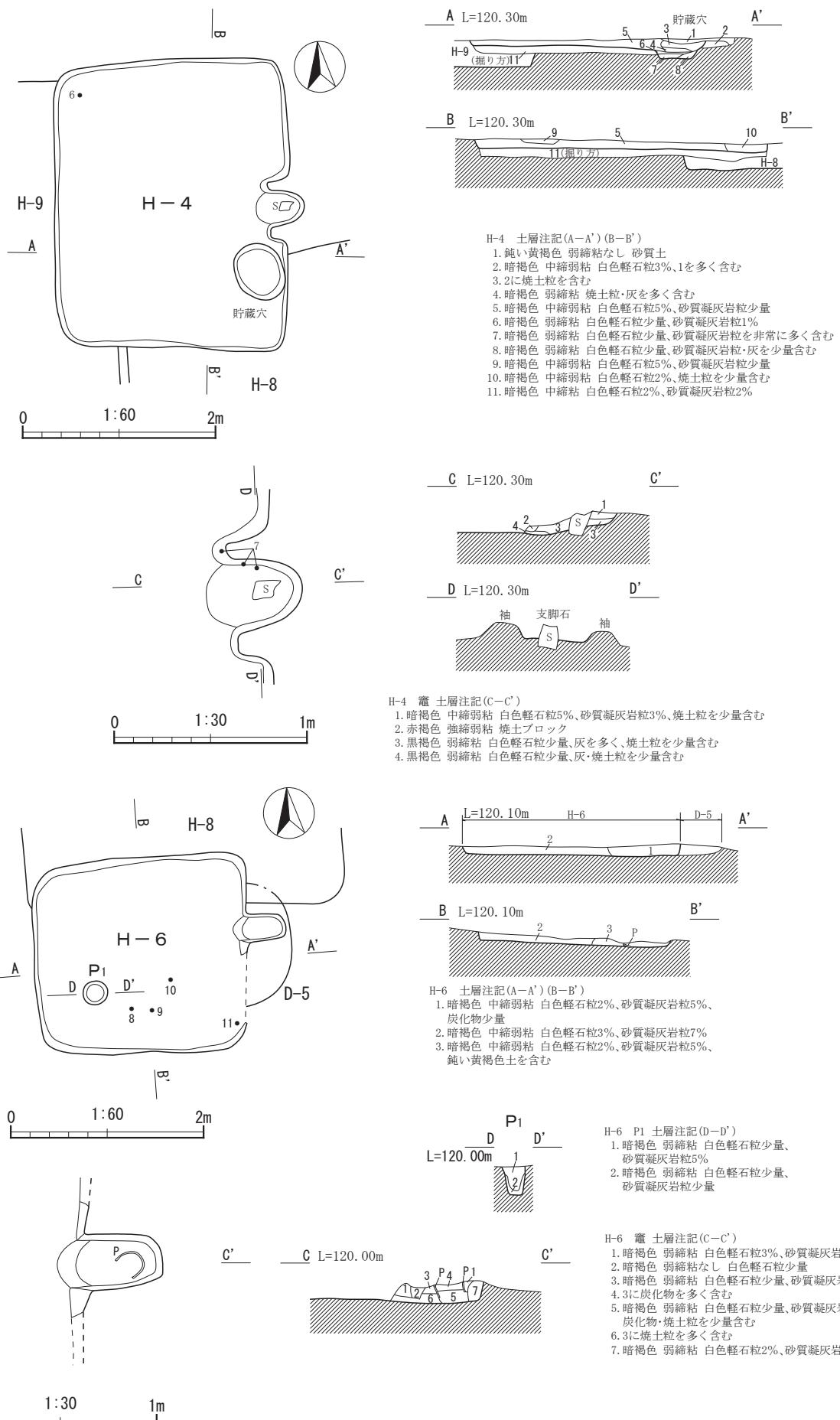
総社稻荷塚大道西No.2遺跡全体図



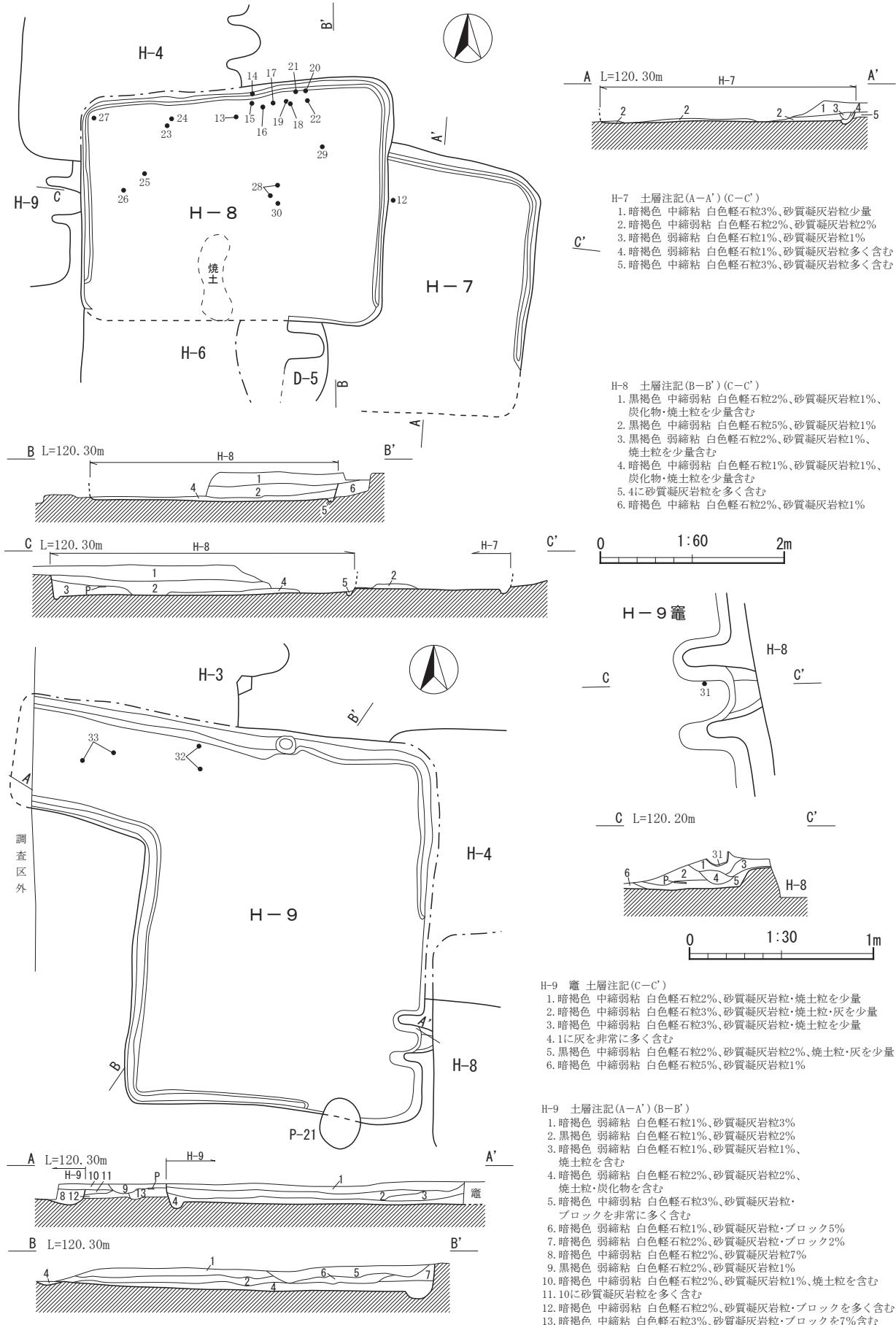
第4図 総社稻荷塚大道西No.2遺跡 全体図



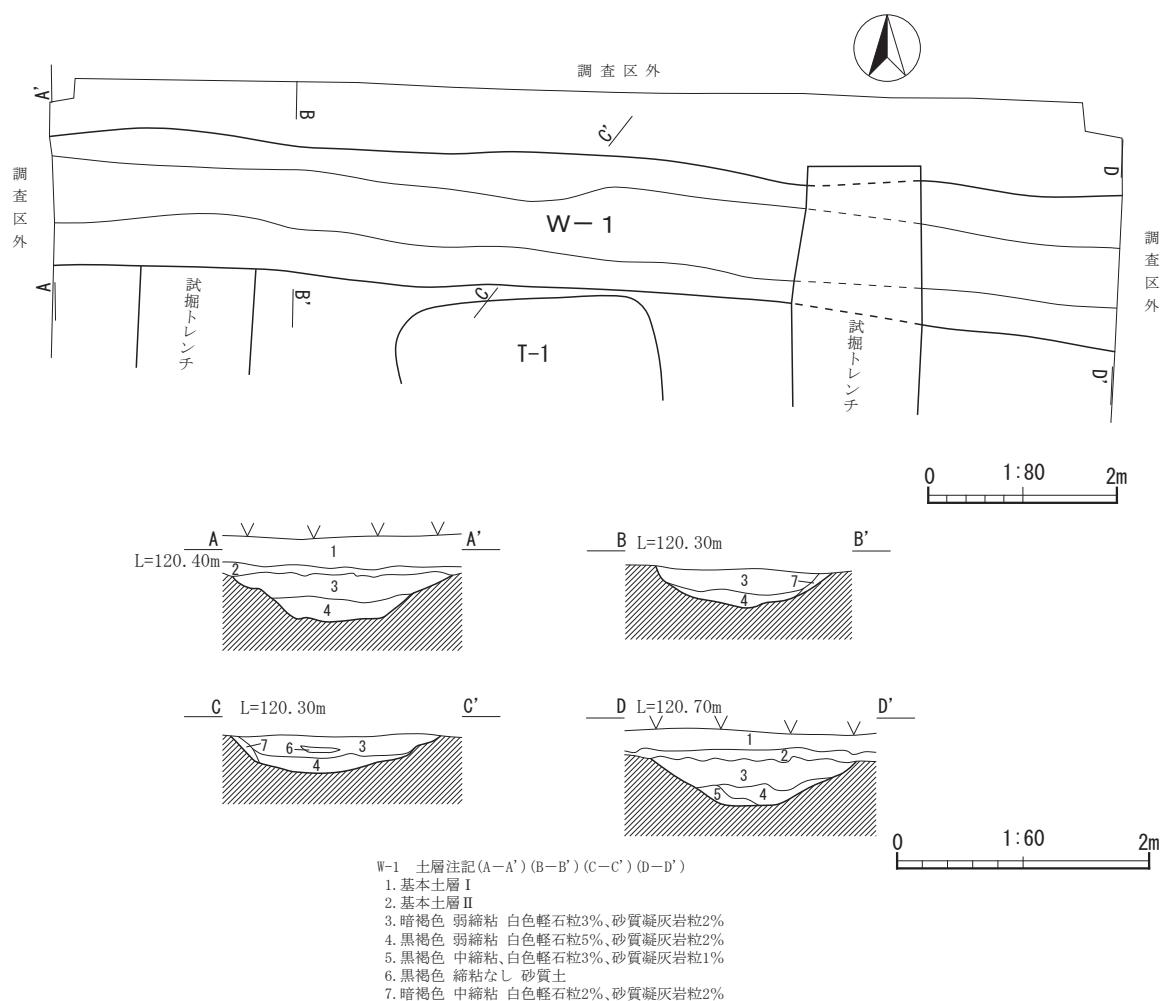
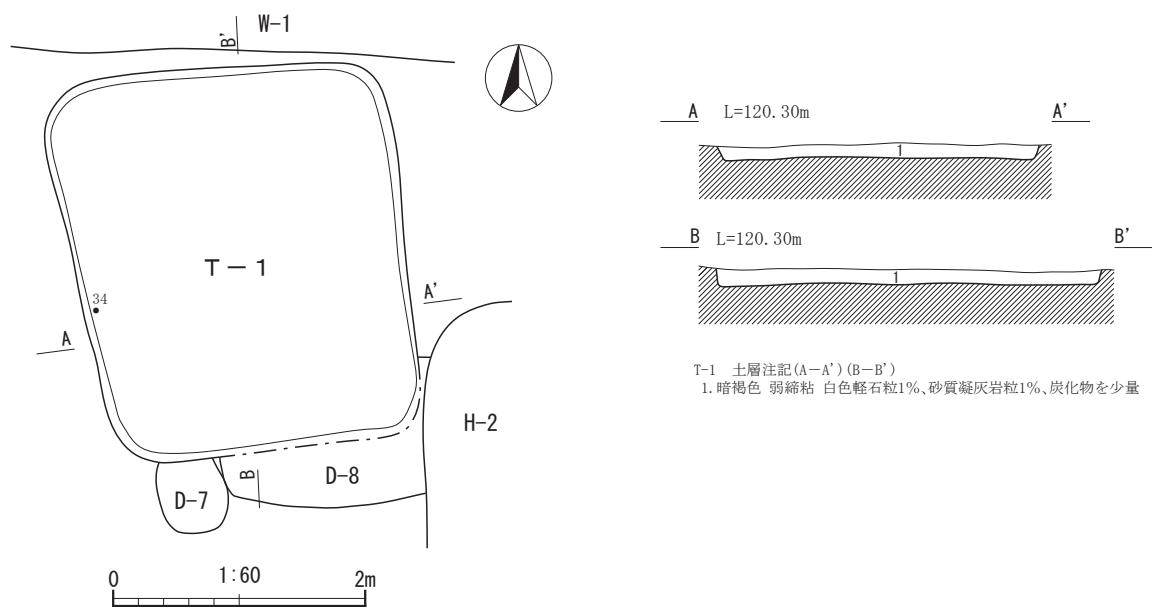
第5図 H-2・3・5号住居跡



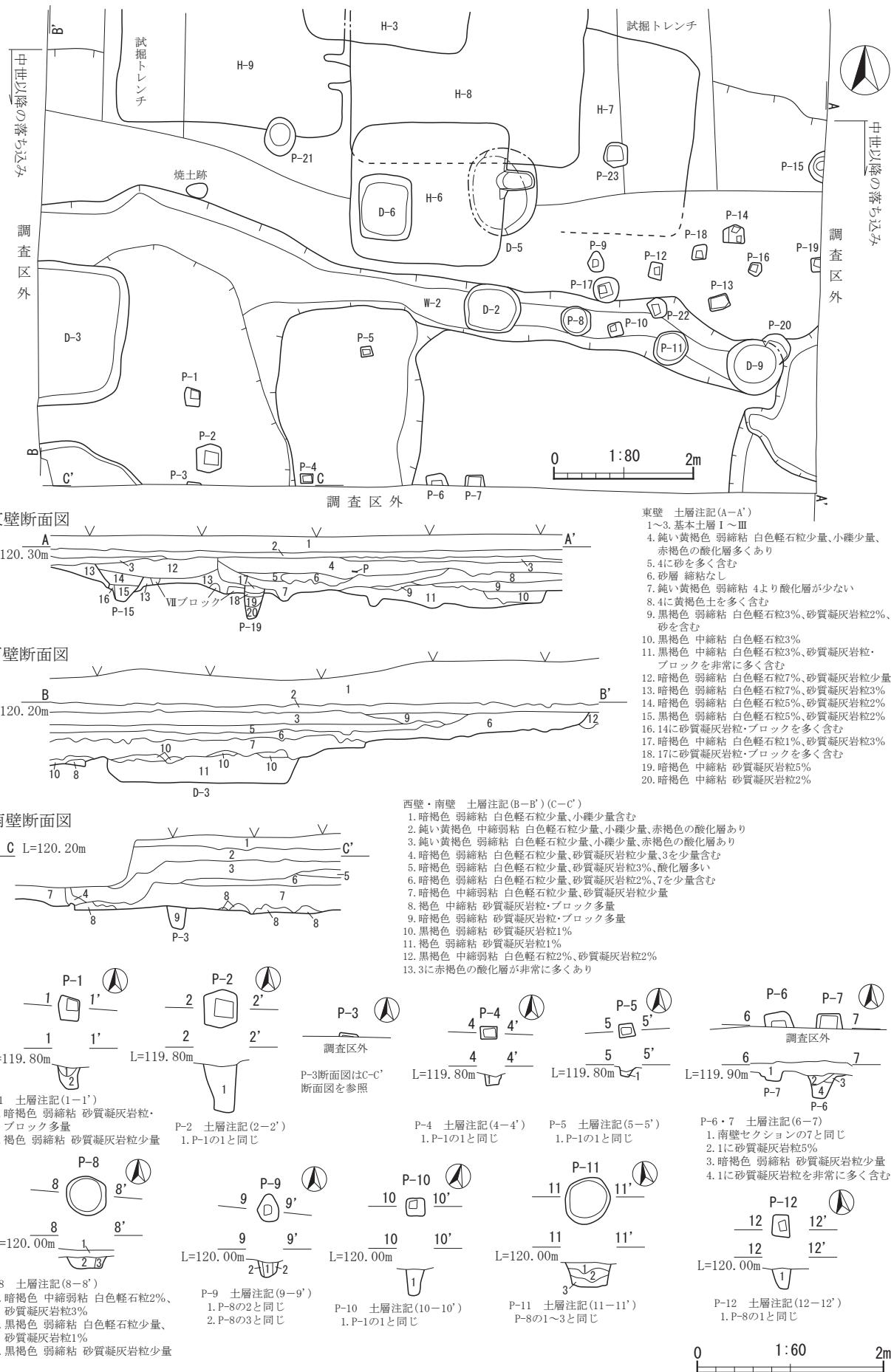
第6図 H-4・6号住居跡



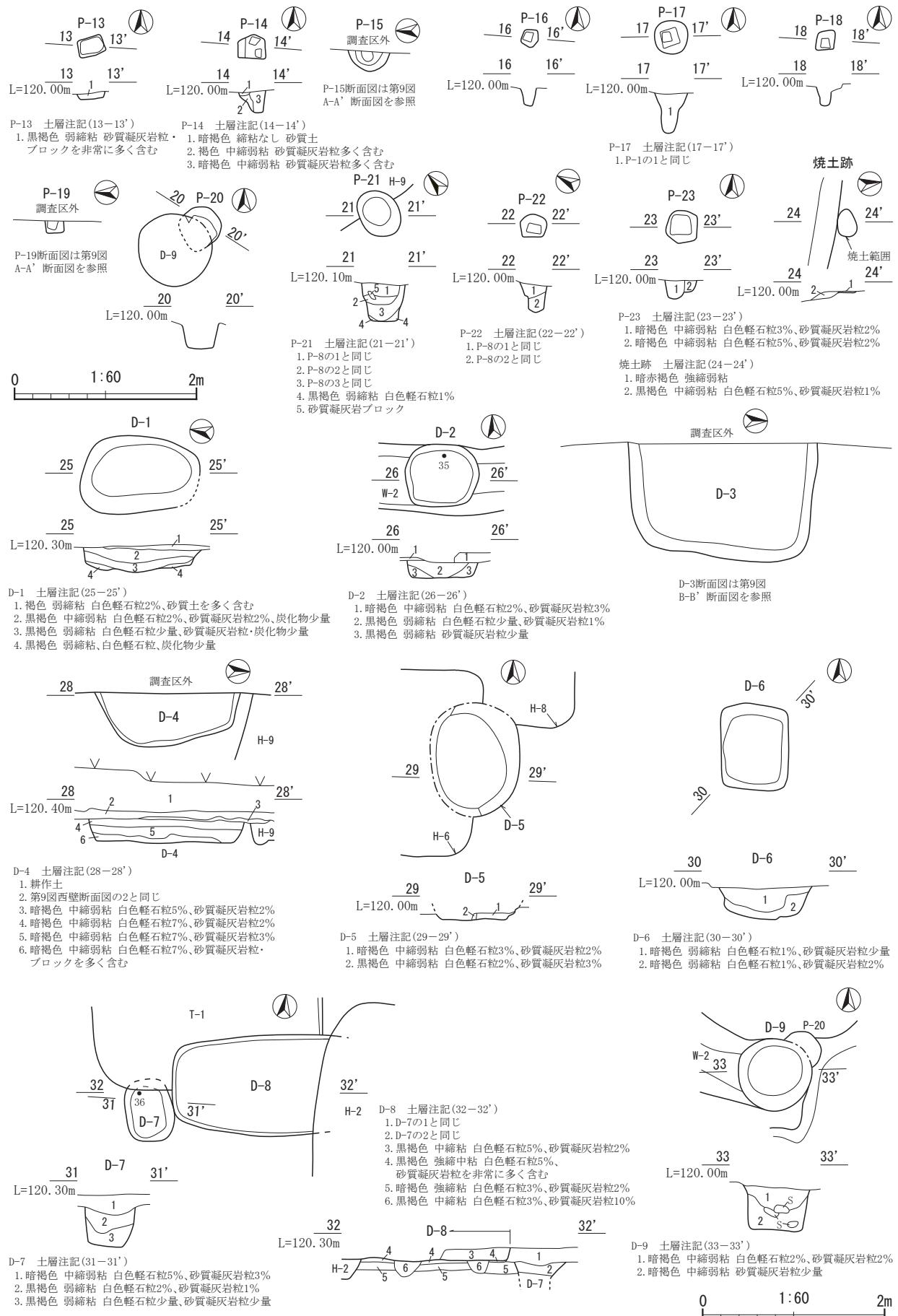
第7図 H-7～9号住居跡



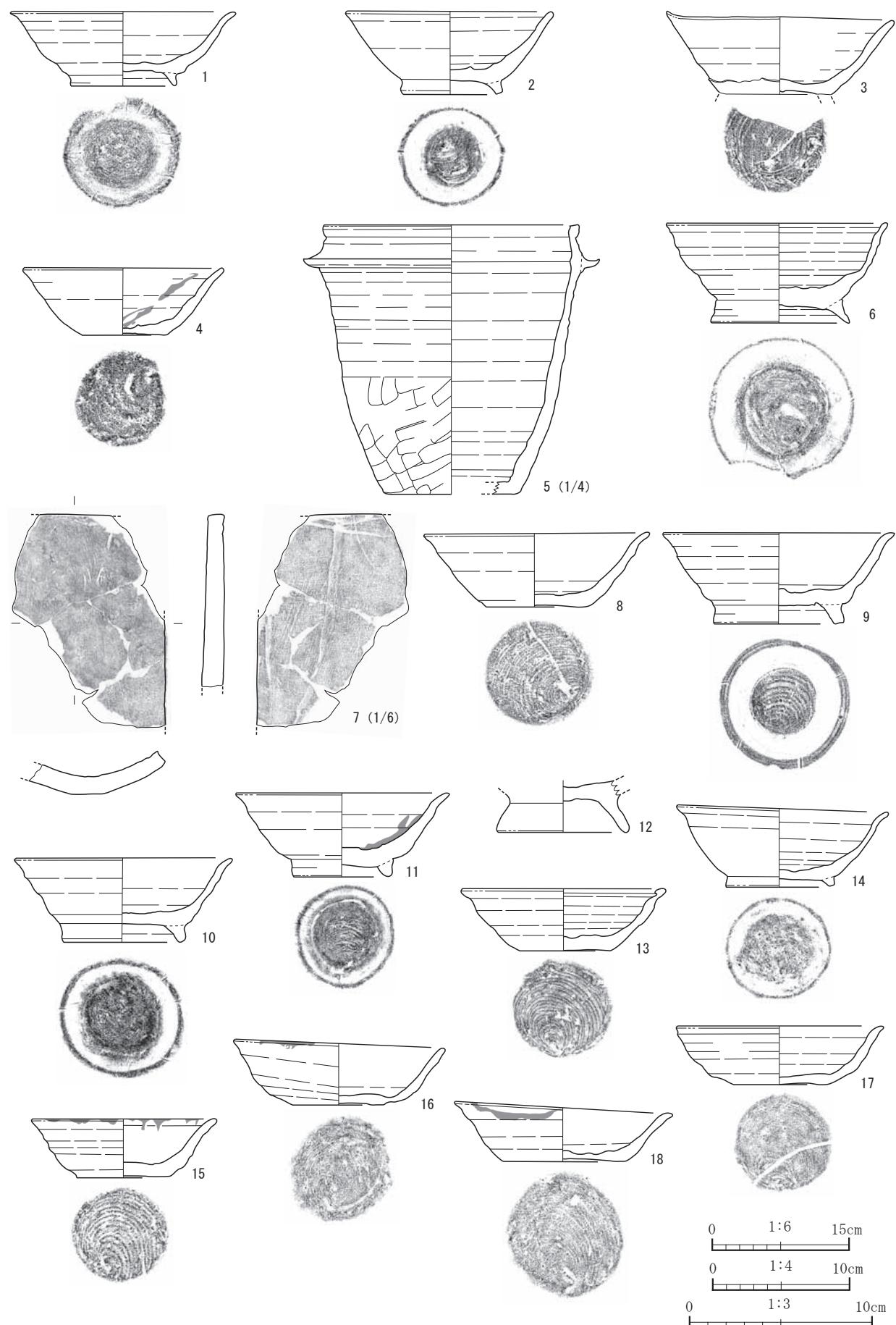
第8図 T-1号竪穴状遺構、W-1号溝



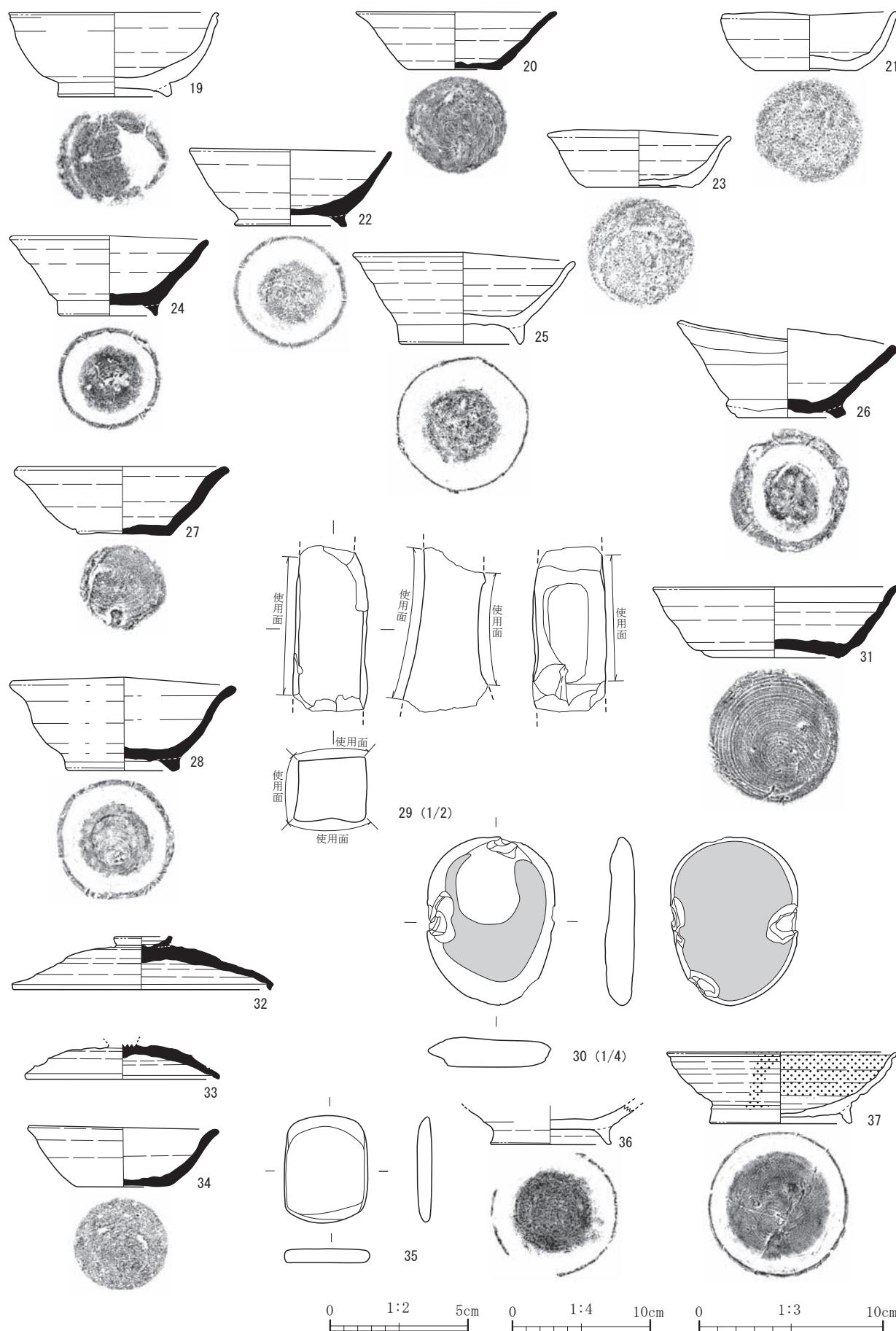
第9図 W-2号溝、東・西・南壁断面、P-1~12号ピット



第10図 P-13～23号ピット、焼土跡、D-1～9号土坑



第11図 H-2・4・6～8号住居跡出土遺物実測図



第12図 H—8・9号住居跡、T—1号竪穴状遺構、D—2・7号土坑、W—2号溝出土遺物実測図

図版 1



総社稻荷塚大道西No.2 遺跡全景（南から）



W—2号溝周辺全景（東から）

図版 2



H-2号住居跡全景（南から）



H-2号住居跡竪全景（南から）



H-3号住居跡全景（西から）



H-3号住居跡掘り方全景（西から）



H-4号住居跡全景（西から）



H-4号住居跡竪全景



H-5号住居跡全景（西から）



H-6号住居跡全景（西から）

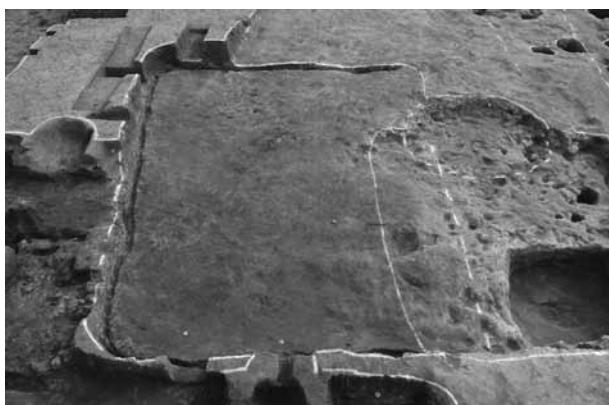
図版 3



H-6号住居跡竪穴状遺構全景



H-7号住居跡全景（南から）



H-8号住居跡全景（西から）



H-8号住居跡遺物出土状況



H-8号住居跡遺物出土状況



H-9号住居跡全景（南から）



T-1号竪穴状遺構全景（西から）



W-1号溝跡全景（東から）

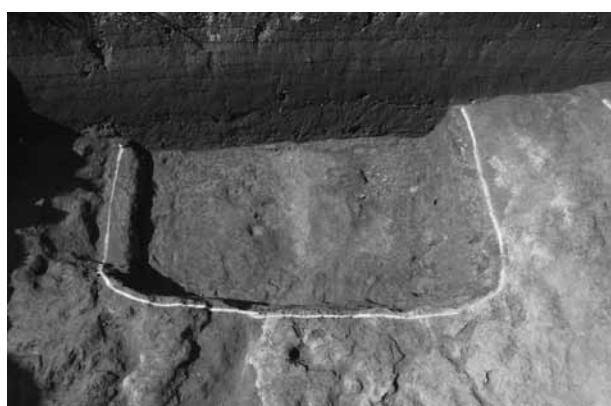
図版 4



D-1号土坑全景（西から）



D-2・5・6号土坑全景（西から）



D-3号土坑全景（東から）



D-4号土坑全景（東から）



D-7・8号土坑全景（北から）



W-2号溝周辺全景（西から）



調査区南西壁断面



調査区南東壁断面

図版 5



図版 6



抄 錄

フリガナ	ソウジヤ トウカヅカオオミチニシ ナンバーニ イセキ
書名	総社稻荷塚大道西No.2遺跡
副書名	携帯電話用無線基地局新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	福田貫之（前橋市教育委員会 文化財保護課） 権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
編集機関	スナガ環境測設株式会社 〒371-0056 群馬県前橋市青柳町211番地の1
発行機関	前橋市教育委員会 〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2012年1月16日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ソウジヤイナリヅカオオミチニシナンバーニイセキ 総社稻荷塚大道西No.2遺跡	マエバシシソウジヤマチソウジヤ 前橋市総社町総社 3026番地	10201	23A 132-2	36°23'36"	139°02'22"	20110926 ～ 20120116	106m ²	携帯電話用無線基地局新設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
総社稻荷塚大道西No.2遺跡	集落跡	平安時代 中世以降	竪穴住居跡 8軒 竪穴状遺構 1軒 土坑 5基 溝跡 2条 土坑 4基、ピット 23基	土師器・須恵器・石製品 陶器・石製品	

総社稻荷塚大道西No.2遺跡

2012年1月10日 印刷
2012年1月16日 発行

発行 前橋市教育委員会 文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10-2
編集 スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1
印刷 朝日印刷工業株式会社